

## 令和4年3月 第4回学校給食センター改築に係る調査特別委員会

令和4年3月29日（火）

### ○議事日程

- (1) 調査報告まとめについて
- (2) その他

### ○出席委員（11名）

委員長10番	村上忠弘君	副委員長8番	岸徹也君
1番	川上絹子君	2番	向井孝一君
3番	山崎仁君	4番	小川ひとみ君
5番	日置紳一君	6番	内ヶ島祐一君
7番	上村忠君	9番	徳田栄邦君
11番	芳賀芳夫君	(議長)	村瀬廣君

### ○欠席委員（0名）

### ○出席事務局職員

議会事務局長	伊藤靖徳君
議会事務局主事	五十嵐陽基君

開議 10時00分

◎委員長あいさつ

○委員長（村上忠弘君） 皆様おはようございます。本日第4回特別委員会のご出席誠にありがとうございます。1月27日から3月21日まで新型コロナまん延防止のため、2か月間余儀なく過ごされた事と思います。今回その間に罹患者が十数名出たという事です。3月15日以後、今金町からの罹患者は今のところ確認されていませんが、この後まだまだ余儀なく予防等については、各自ご注意くださいと思っております。そういった事で、この3月という事であれば、いつもは学校等の卒業式、それから4月は入学式がありますが、新型コロナが確認されてから、学校関係の授業は我々議会としての出席もされていないところがございます。議員として学校行事に出席されていないという事で、町民は分かって貰えているかと思いますが、我々現職は大いに出席していく事が本当はベストかなと思いますけれども、いかんせんこの部分については仕方のない事だと。そういった事も含めて残すところ任期1年です。皆様のコロナに関する部分について十分ご配慮頂きながら、この1年を過ごして頂きたいと思っております。本日第4回特別委員会について、皆様からのご意見を頂きながら進めてきましたが、まだまだ話的には十分では無いというふうに思いますけれども、1つこの第4回の特別委員会に十分意を尽くして頂きますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。

◎開会の宣言

○委員長（村上忠弘君） 只今の出席議員は11名で、定足数に達しておりますので、「第4回学校給食センター改築に係る調査特別委員会」を開会いたします。

◎議題1

○委員長（村上忠弘君） これより議事に入ります。

議題1、「調査報告まとめについて」を議題といたします。まず私の方からこれまでの特別委員会の経過を確認します。第2回特別委員会を1月19日に開催しました。3名の欠席者の中でございましたけれども、基本方針案について出席者全員よりご意見を頂き、理事者、教育委員会に出席を頂き、より詳しく内容説明を頂きたいという発言が多数の委員からありました。それによりまして次回は理事者の出席要求をする事に決定したところでございます。第3回特別委員会2月16日の開催にあたりましては、町長、副町長、教育長、給食センター、総務財政課、公営施設課の出席を頂き、給食センター整備に関する基本方針案について改築事業費10億7,360万円、直営方式、公設公営、規模について学校施設環境改善交付金補助基準面積403㎡という部分について、面積を下回ると補助対象外になるという説明がございました。その後総務財政課より全体事業費と財源内訳、また地方債償還額推移の説明がありました。その後沢山の質疑がありました。質疑の中は基本方針案に対する反対、または見直しとすることのご意見は特にごございませんでした。

た。理事者退席後、次回特別委員会の持ち方として、お伺いをしたところ3月常任委員会、定例会の動向を見ての発言がありましたが、特にご意見等はありませんでした。また3月常任委員会において文言や字句の訂正された基本方針案が教育委員会より提出されております。という事で本日調査報告書まとめというご案内をさせて頂いたのでございますが、よろしくお願いいたします。

どうでしょうか、まとめというご案内ですけれども、付け加えるご意見等あれば出し頂きたいと思いますが。岸君。

- 8番（岸 徹也君） 本日は調査結果まとめの議題です。これは委員の方の多くがそのような流れを望むのであればこれはいたしかたないと方向に進むだろうと考えるわけですが、私も色々考える部分もございまして、この特別委員会において調査をしつくされたのだからと疑問に思う部分というものもあるわけです。一連の今までの流れは、これはこれとして私もこれは認めている話ですから、それについては何も異論はないですが、やはり調査をしつくしているのかという部分においては、昨今様々な箱ものと言われる物の予算規模が膨らんでいる中で給食センターにおいても4億という数字も昔出たという事もあるので、6億、8億、10億という形でどんどん膨らんでいる、これは側だけの話ですから、中身も入れればまだまだ増えるだろうと。財政が厳しいと言われていの中で、そこまで費用を掛ける。給食センターの機能としては有しておかなければならないと思います。その想いは皆様一緒だと思うのです。給食センターの機能としては今金町でそれは設置をします。しかし今、行政側が行っている公設公営の部分において、10億もつと言うとまだまだ費用が掛かるだろうと。起債の償還ピークをみた時に10億に迫っているものもあると。きっと国営の償還も含めると、まだまだ償還額は高まるのであろうとそういう事はある程度予測はできます。行政側は行政側の方針。今回設計費用、予算で付けていますけれども、行政側の考える方針に沿って動いていくだろうと。スケジュールを持って動いていくのだろうとそう考えます。それに対して議会が追随するのか、それとも、もう少しこの部分はどうかと色々な運営方式も公設公営以外にもあるだろうと。そういう事をきちんと報告として挙げられるのか。その事が大事だと思うのです。結果執行するのは行政ですから、行政側がどのような判断をして執行をしていくか、これは議会とは別の話ですから、議会側は様々な今後の財政難を考えた時には、今行政側が言っている公設公営以外の方式、例えば新聞報道でも出ていますけれども、ある事業者がある町に対してスクールランチという形で実際にやっている自治体もあるわけです。新聞報道を見ますと、反響については10市町村からオファーがあるという文言ものついたりします。調査特別委員会としては、様々な事の調査というものを尽くして、報告を上げる事が大事だとそう考えるわけです。行政どういう判断をするのかは分かりませんが議会として調査をしてつくしていく。財政的な費用がスクールランチ、民間事業者に委託をして費用が抑えられるのであれば、それも議会としては調査をしながら報告にまとめるのも十分必要だと感じます。私からは以上です。

- 委員長(村上忠弘君) 只今、岸君から特別委員会の調査は十分なのかというご発言です。他にございませんか。
- 5番(日置紳一君) 今日の調査報告まとめについての議題ですけれども、これは委員長、副委員長と事務局で決めたものではないですか。
- 委員長(村上忠弘君) その通りです。
- 5番(日置紳一君) それであれば、三者の中できちっと揉んで、まとめという言葉を使ってほしくなかったと私は思います。副委員長から話がありましたが、トドックや民設民営はまず先に言ってほしかったです。私は意見の中で公設公営という言葉が発した場面がありましたが、そういう時に話を出してもらって、そこから始めるのが特別委員会の基本です。三者で決めた中で取りまとめについてとあるのにこれから調査する。それはいかなものかと思うのですよね。足りないならやってもいいかもしれないけれども、今話された事は、やはり前段で出してもらわないと。確か記憶では公設公営は理解しますという発言もあったと思います。財政の事も言われていましたが、そこは分かっていますけれども、財政が心配だから民設民営でやりましようとか、もう少しやれたと思うのですよ。定例会の時に予算も出て来ています。その時にどうだと、私は意見があるなら言ってほしかった。調査特別委員会で揉んだと言っても、議会で議案に載っている場面で言わないのはどうかと、私はそういう感想があります。
- 委員長(村上忠弘君) 岸君。
- 8番(岸 徹也君) 今の日置委員からの様々なご意見ありましたので、真摯に受け止めたいと感じます。ただ私は冒頭にお話をしましたように、ここの中にいる全委員がまとめの方向に向かうと、そういう事であれば、いたしかたない話だと考えております。それを前提として、その上で調査を尽くしたのかと私は提起しているわけです。これが必ずしも調査何かしなければという事ではなく、委員会ですから委員の皆様のご意見を尊重し、過半数の方のご意見という事は尊重されなければならないと。その上での発言だと理解して頂ければと思います。
- 委員長(村上忠弘君) 日置君。
- 5番(日置紳一君) 個人攻撃ではなくて、ただ正副委員長は考えがまとまっていないとおかしいです。副は補佐ですから、そういう気持ちがあるのであれば、二人でもっと揉んでもらって、議論が足りないという事であれば、そっちでしてもらわないと。おかしくないですか。私はおかしいと思います。岸君の言っている事は分かりますが、正副委員長ですから、やはり本来であれば委員長が進めたい方向で進めるための補佐をする。普通はそうですよね。皆様どう思うか。聞いてください。
- 委員長(村上忠弘君) お二方からのご意見に対してではなく、自分の意見として考えを出して頂ければと思いますけれどもいかがですか。山崎君。
- 3番(山崎 仁君) この特別委員会を設置した目的は、そもそも高額な施設投資になると。この事が町の財政に及ぼす影響だとか、必要度合いを考えながら委員会としてこれに

対する意見があれば、まとめましょうという大筋の流れになると思います。多分ここにおられる調査特別委員会の委員の皆様は、以前からいうと総合体育館、中学校工事、給食センター、消防、本庁舎、施設投資としてこれから出てくる。少しでも効率的な、しかも町の財政にあったようなものが出来ればと。皆様はそうだと思うのですよ。それにそった発言をしていると思いますし、同僚も進め方についてのご意見がありましたけれども、まったくその通りです。この中でもし可能であれば、まとめの文言としてもっと基本構想、計画の予算は認めたわけだから、これは認めたけれども、これから費用の縮減に向けて努力をされたいと。そっちの方向の話になると思います。進め方の話で色々ありますが、是非そちらの方向でまとめていけるような考え方で進めて行ったらいいと思いますけれども、いかがですか。

- 委員長（村上忠弘君） 前回、理事者に出席してもらって、財政だとかそういった部分は詳しく説明を受けました。その中でそういった心配事だとかという部分は大いに場面を出して頂き良かったと私としてはあるのです。私はその時に意見がなかったから納得したのかな。まとめという事でご案内したのですけれども、その進め方が悪かったというのかなと。山崎君。
- 3番（山崎 仁君） 誤解しないで頂きたい。最後のまとめという事であれば、どんな事業をやるにしても、議会からは少しでも費用が掛からない方向で事業を進めて下さいというのは、どんな場面でも言わなければいけない話ですよ。だから前回理事者との質疑でもっと安く出来ないのかという話はなかったけれども、ここでまとめる時は議会ではそういう意向だよという話で私はなんらここで意見が出てもおかしくはない。それを委員長は求めているのだろうと思って、今話している。そういう事でご理解頂きたいと思います。
- 委員長（村上忠弘君） わかりました、まとめの中で出来るだけ縮減出来るような方法でという事ですよ。他にございませんか。向井君。
- 2番（向井孝一君） 私は前回理事者との質疑の中でも、どこをどう縮減出来るのか、中々難しい問題だと思います。そして基本設計を認めて予算を通したわけですよ。あとは全体の予算で削れるものはないというそれは言えると思うのですが、給食センターは子ども達のための事ですから、あまりもめてという話ではないと。私は一連の常任委員会あるいは特別委員会の説明を聞いていて、この流れの中で別に大きな問題は無いという気がします。それと6月定例にたいして答申するスタンスで、私は委員長のお考えで十分理解できる気がします。
- 委員長（村上忠弘君） 他にご意見ございませんか。川上君。
- 1番（川上絹子君） 給食センターのまとめに入るという事で進めているのですけれども、もし、中のまとめの中に一応去年私達給食センター視察を政務活動費で行った事があるので、その中で私の希望で思ったのですけれども、何か見てきたものの内容をまとめの中に、その文面の中に見てきたものをまとめに入れてほしいなと思うのですよ。視察に行っ

た時、道教委とかあちこち行っているの、ここで話合っているの、それでも今の理事者から出てくる提案を認めて、私達はそれをたてるという事であればそれで良いと思うのですけれども、視察に行ってきた立場として、どこかに言葉が入ってほしいと感じたのですが、報告書は事務局に出ているので、その中からまとめの時に正副委員長と事務局長で、ある程度まとめてくれるのかなと思うのですが、その中に文言を入れてほしいという考えです。

- 委員長(村上忠弘君) 学校給食研究グループ4名で行ってきた報告書を私は持っています。その中で今回、今金町の給食センターの部分の話ではなくて、行った先の話でございますが、ここで先ほど岸君から話がありましたが、スクールランチだとかそういった部分は今日ではなくても、以前にその話を出して頂ければ、そういった部分は課題として皆様に共有した中で意見を貰えたと思うのですね。ここでということで、報告書でまとめとして入れられる部分、私は良いと思うのですが。3人の中から発言がありました。内ヶ島君も行ったと思うので、もし意見があればお願いいたします。
- 6番(内ヶ島祐一君) 私も行って参りました。その中で学校給食でも問題点が話されて言いました。例えば職員がいないとか、人口も今金と似て、浦幌はね。様似は財政が大変だから近隣と学校給食をやろうとしたけれども中々まとまらなくて、事業者任せという話を聞いています。建物の中も計画通路があるけれども、使っていないという話もあったり、色々問題点も聞いていたので、その辺もどういうふうにしていくのかなという話も、私もそういう思いもあるけれども、必要の無いものもやらないといけないのかなと、まとめに書いているけれども、皆様もその辺をどういうふうに思っているのかまとめる側にしてみたら大変だと思うけれども、行ってきた感想はそのように考えています。
- 委員長(村上忠弘君) 委員長の立場として、研究グループの人方の行った先の話は今日ではなくて、もう少し2回目3回目の時にその話を出して、課題として挙げて貰えれば、そういう方向でやりとりできたと思うのですよね。今までそういった部分で理事者とのやり取りの中で意見も出なかったと。常任委員会、定例会でも意見がでなかったと。であるから議論はし尽されたのかなという思いです。まとめという方向にしたのですけれども、色々な思いをまとめの中に入れる事は、私は良いと思います。言葉を皆様はどう思っているのか。こういう言葉を入れてほしいという事で、皆様から是非ご意見を出してほしいという事なのですけれどもいかがですか。
- 4番(小川ひとみ君) 意見というよりもお聞きしたいのですけれども、今のお話だと公設公営に対して反対という意見なのか、私はそのところまで全部議会としてまとめて出すべきなのかなと思っていましたが、前回の会議では反対という声は出なかったものだから、公設公営はそのまま議会として賛成するという形でいくのかなと思っていました。今話を聞くと、具体的なお話は聞いていないので分からないのですけれども、反対という事であれば、私としては、ちゃんと議会として話し合わないといけないと思うのです。まとめの中で、そういう違うものもあるみたいというのは、根本的に方針だと思うので、

このところは、やはりきちっとした方が良いと思います。私は公設公営で、前回は一番出たのは、その公設公営ではない場合のデメリットが色々出されたと思うのです。それに対して私自身は理解しました。やはり今金町としては公設公営を取るべきだと思っています。委託という話もありましたが、委託業者地元がありません。他所に委託業者を持って行くとなると、やはり地元の物が入らないという事になってしまう、金銭的な部分を考えたら、他の地場産のものを中々ならないし。やはり少しではありますが、地元業者も関わっている部分もあるので、そういうのを考えた上で公設公営が良いと思いますが、その辺は特別委員会として持って行くのかなと今疑問なのですが。

- 委員長(村上忠弘君) わかりました。山崎君。
- 3番(山崎 仁君) 今まで進めてきた事に対する反対の意見は今出ていますか。今まで進めてきて、予算認めて、公設公営で、基本方針を良しとして、基本設計まで入って、反対という事ではないと思う。ただ色々な取組が道内で見られるわけだから、今金町は今金町の独自で、少しでも抑えられる方向で考えて下さいという事が、まとめの中に入るのではないですかという、今発言している方はそういう意味で行っていると思うのですよ。だから賛成反対なのか、ここまできて反対という意見を私はどなたも出していないと思う。まとめの中に入れられるかという話だと思うから、そのようなところは、今後まとめに入るのであれば、文言の整理をしながら、一回まだ早いか分からないが、正副委員長と事務局でそういう方向で考えていただければと思います。
- 委員長(村上忠弘君) 確認します。運営方針は直営方式で公設公営という事については、皆様ご理解頂けたのかなと思うのですが。いいですね。規模については先ほどご意見ございますように、規模というより事業費については、出来るだけ下げられるものであれば下げてほしいと。前回教育委員会の方から話ありましたが10億7,000万円のうち、物価上昇分15%をその中に折り込んでいるという事でございます。それは旧施設解体から整地まで含めた中で、新たな給食センターの部分は8億前後かなというふうに受け止めているのですが私は。後はどうでしょうか。芳賀君。
- 11番(芳賀芳夫君) 前回特別委員会でも私の考えとして公設公営という事を示しました。ただ食というのは、やはりよく言われるのは、人生の積み上げ、教育関係では、教育は一瞬であっても永遠なものという事がございます。学校行事の中で田植え、収穫といった小さな農業体験学習がありますけれども、これに付加価値を付けられるような取り組みをして、行く末は、今子ども達は我々のいう食の安全であるとか、地産地消、食糧自給率、全く理解できない中で子ども達だというふうに思っています。これから年を重ねる事で、その事が十分理解される、地域農業の将来の応援団になるだろうという観点から、教育委員会として、学校行事の取り組みを今以上のものになってくれれば良いなという思いをしております。特に規模の関係でありますけれども、色々補助事業との絡みもあるように、委員長から話がありましたが、やはり出来るだけ会議室等については、それぞれ体育館、町民センターという、こういったものを利用できないのか。あるいは今使ってい

る器具、機材を再利用出来るかの出来ないのかを検討して、安価な事業に取り組んで頂きたいと思います。

○委員長（村上忠弘君） 上村君。どうでしょう。

○7番（上村 忠君） 私がこれまでの部分で感じたのは、建物を建てる面積が適正なのか、想定している人数がどうなのか、そういった事が一番だなというふうに。今の想定している数で基本設計を出されましたが、その想定するものによって立つ物の規模が決まると思っていますので、具体的な設計の段階になった時に、最初の想定はこうだったけれども、設計の段階でもう少し縮められる、そういうものがあるとすれば、そういう方向も必要になるのかなという思いもあります。他に委員から運営の仕方についての話もありました。現状は公設公営でいくしかないけれども、建物が建った時に運営の仕方を考えるのは、今後については考えようもあるのかなと感じています。今回のまとめ部分に関しては、建物を建てる段階で、具体的な設計になった段階で、適正かそうではないか、しっかりやって頂きたいと、今のところの私の意見です。

○委員長（村上忠弘君） 徳田君いかがですか。

○9番（徳田栄邦君） 基本的には山崎委員が言ったような形で、私はまとめてほしいと思います。私は質疑の中でも言ったのですが、これから建てる給食センターは、停電対応だけはしているのですけれども、大規模災害に対応した施設になっていないのですよ。その辺を折角建てるのですから、検討材料にして、災害の炊き出しを出来るような施設になってほしいと思って質疑の中で言ったのですけれども、色々な事を副町長に答弁を頂いたのですけれども、その辺も含めて基本設計の意見として付けて頂ければと思います。

○委員長（村上忠弘君） ありがとうございます。まとめの中で皆様の取り入れてほしい意見がございました。さらに付け加える意見があればお願いをしたいと思いますけれども。一通り全員からご意見を頂きました。このご意見を取り入れた中での報告書を作って、再度皆様にお示しをしたいと思いますけれどもよろしいですか。6月定例会に向けて議長から受けた諮問に対して答申をしたいと思います。その前にまとめた報告書を皆様にお示ししたいと思います。5月中という事にしたいと思いますよろしいでしょうか。それではそのように決定いたします。

## ◎議題2

○委員長（村上忠弘君） 次に、議題2「その他」についてを議題といたします。委員の皆様から何かございますか。なければ閉会と進めて行きたいですけれどもよろしいですか。

## ◎閉会の挨拶

○委員長（村上忠弘君） 以上で、本日の特別委員会を閉会といたします。ご協力ありがとうございました。

閉会：10：43